

7月2日の朝会での話

校長 武田昭夫

おはようございます。

あと、3週間で夏休みです。そろそろ、予定を立てている友達もいるかもしれません。楽しみですね。しかし、3年生は中学校最後の夏休み。部活動も、最後の大会になると思います。前回お話ししましたが、「あの時、もう少し頑張っておけばよかった」と、思うことのないよう頑張してほしいと思います。今日、明日、あさってと毎日が充実した日々となるようにしてください。

さて、今日は、新聞の投稿欄の記事を読みたいと思います。『マナーを守ってバス利用を』という題で、90歳の男性が書いた文章です。では読みます。

「バス利用については、指摘したい乗客マナーが幾つかある。空席があり、そんなに込んでもいないのに、入り口の柱を握って立っている人が多い。降りる人にとっては邪魔で、時間も余計にかかる。複数の行き先のバスが止まる停留所で待っている人は、手を挙げる、振るなどの動作で自分が乗るか乗らないかを運転手に知らせてほしい。停車して運転手がドアを開けても、ただ知らん顔をしている人が結構いるのには憤りを感じる。

バス待ちに限らず、長い列になるとき、前の人との間隔を意味もなく空けて平気な人がいる。行列がいたずらに長くなる元だから詰めるように心掛けてほしい。」

さて、いかがでしたか。「最低限のマナーを守ってほしい」とありました。「大人として、当たり前的事がなかなか守れていない」と、嘆いています。90歳というと、大正生まれです。昭和生まれの最高は、81歳。明治生まれは、96歳以上です。

皆さんは、今、中学生。洋光台第二の中学生として行動してほしいのです。例えば、二人乗りの自転車は禁止されています。なぜか。危険だからです。それから横断歩道のある所での信号無視もそうです。また、空のペットボトルやコンビニの袋などのゴミが道路の脇に落ちています。だれかが捨てたのです。夏休み中に、地域のお祭りがあります。そこで、人に迷惑をかけるようなロケット花火、それから、火遊びはいけません。中学生として、小学校の児童に真似をしてもらいたくない行動は、絶対無くしてほしいと思います。

さて、中学時代は、昔から悩みが多い時代です。受験という苦しいこともあります。また、嬉しいことが多い時代です。おかしいと思い、笑うことの多い時代です。これから、皆さんは、いろんなことを学んで、一人前の大人になっていく、今は、大人に成る準備段階だと思います。ですから、学校で勉強し、本を読んで、また、大人の人話を聞いて、学んでいくのだと思います。先生方も日々勉強をし、学んでいます。まだまだ、人間として、覚えていかなければならないことがたくさんあるからです。皆さんにとって、ここにいる先生方は、先に生まれて人生経験を積んでいます。皆さんがこれから経験する人生経験なるものを、今まで経験してきました。困った時、どうしようかと思った時、この先生なら話を聞いてもらえそうだ、という先生に相談してください。悩みは解決しないかもしれませんが、気持ちは軽くなるはずですよ。悩みの多い時代、ストレスに負けないよう、夏の暑さにも負けないよう、取りあえず3週間、頑張ってお休みを迎えましょう。

また、生徒会を中心に、洋光台駅前での募金活動が先週にありました。ありがとうございました。

最後に注意の一つしておきます。今度、参議院選挙があります。街中にポスターが貼ってあります。そのポスターに絶対にいたずらしないようお願いいたします。ごめんなさい、では済みません。保護者が呼ばれ、大変なことになります。過去に洋二中の生徒で、いたずらした人はいません。皆さんも、ポスターにいたずらしないようお願いいたします。



国際平和スピーチコンテスト

先日、磯子区「国際平和スピーチコンテスト」が森中学校でありました。洋二中代表として3年生の幸保千紘さんが出場しましたので、そのときの内容を紹介します。

思いやりが世界を救う

3年 幸保千紘

「貧しいために、最愛の娘を見殺しにしなくてはならないのでしょうか」

心臓病を患う娘を助けたいという両親の思い。一通の投書をきっかけに約40年前に始まった明美ちゃん基金、投書は大きな反響を呼び一週間で425万円もの善意が寄せられ、そのお金で明美ちゃんは手術をして元気になりました。

現在の明美さんは、病院で看護師として働き、かつての自分と同じような境遇の子どもたちの医療に携わっています。

この新聞記事を読んで私も明美ちゃん基金に協力してみようと思い、少しずつ募金をしています。

世界には病気に直面しながらも高度な医療を受けられずに苦しんでいる発展途上国の子ども達がたくさんいます。この基金はそういう人への救済にも当てられます。

世界各国で戦争や紛争が起こり、一度に多くの命が失われてしまう悲しい世の中です。その中で病気の子の大切な命がたくさんの人々の少しずつの善意のお金で救われているのです。私はこの現実にも強く心を打たれました。

また、基金で救われた家族は日本の医療と善意に感謝します。そのことで国際交流が生まれる。すばらしいことだと思いませんか。小さな力が集まって大きな結果につながる「基金」の意味を改めて学びました。

今、世の中には自分の利益のためだけに行動する人がたくさんいます。その顕著な例があのだらば列車事故です。福知山線脱線事故、多くの人を乗せているのに電車の本数を極限まで増やし、時間短縮のためにスピードを上げ引き起こされた悲劇...たくさんの命、たくさんの希望を失わせてしまいました。一人が幸せになっても周りが不幸になるかもしれない...現代の社会には「自分さえ良ければ良い」という風潮がはびこっているのです。今です。今、その考えを変える時ではありませんか。

私はその一歩として生徒会募金活動に取り組んでいます。この活動が社会を変えることを信じて...街行く人に、洋二中の生徒一人ひとりに募金の本当の意味を知ってもらいたい、みんなの心を動かしたいのです。

私達中学生にはまだたくさんの可能性があります。私達の希望を、失いかけてしまっている人々に分けてあげようではありませんか。

私が行った活動は決して大きなものではありません。でもきっと誰かの役に立っています。小さな活動でも継続することで大きな力となるのです。

私はこれからも明美ちゃん基金に協力し続けていきます。皆さんも身近な所から協力してみませんか。世界平和と私達の明るい未来のために、一人ひとりの意識が変われば救われる人も増えるのです。



募金はユニセフに寄付します。



駅前での街頭募金の様子